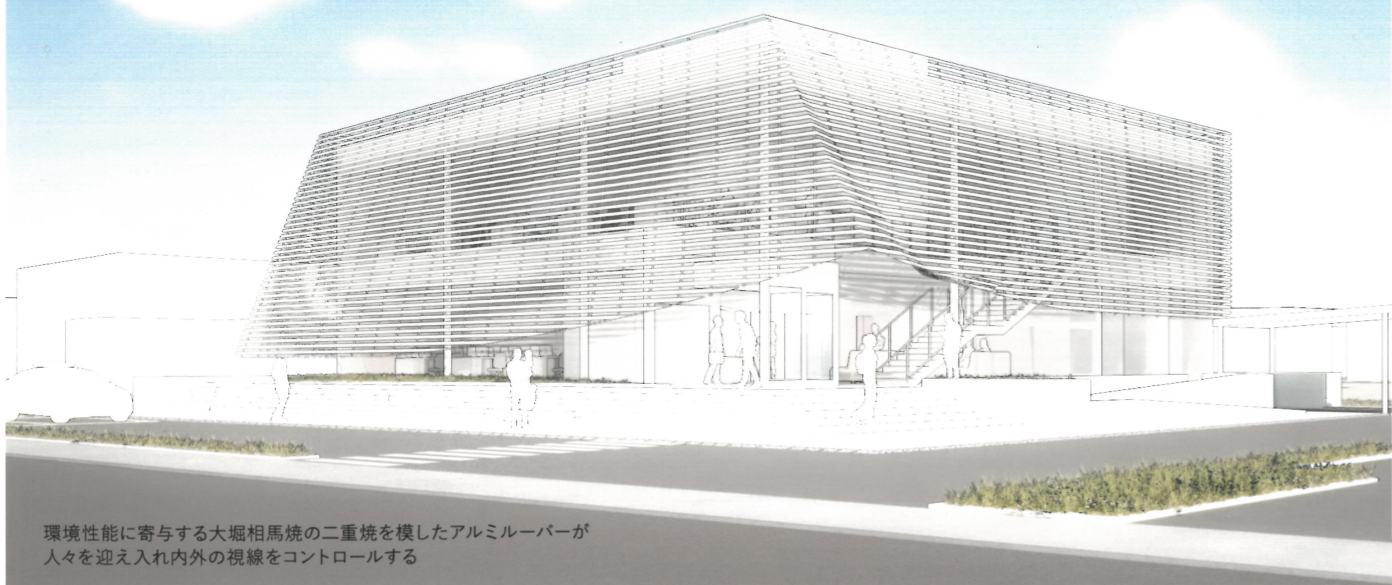


記憶をつなぎ、未来をひらく

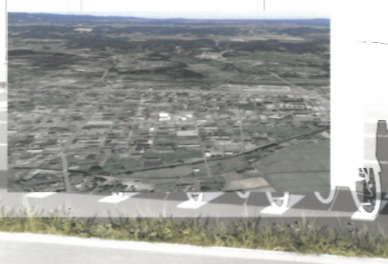
# 復興のまちを見守る透明な庁舎



環境性能に寄与する大堀相馬焼の二重焼を模したアルミルーバーが人々を迎え入れ内外の視線をコントロールする

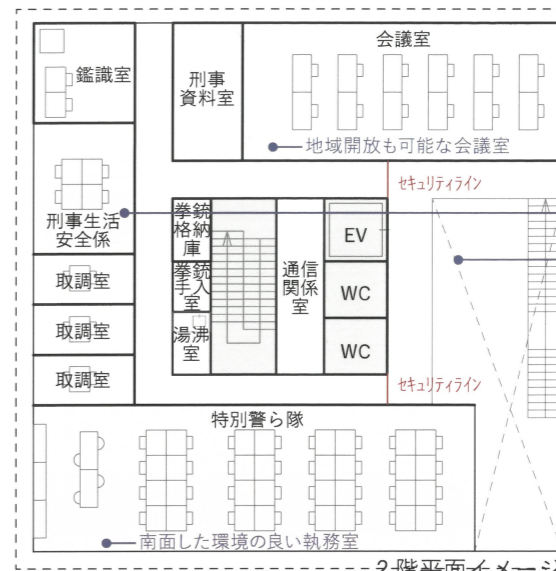
震災の記憶を抱く浪江の地に、地域へ開きながら安全を守る透明な庁舎を提案します。新しい警察署には、地域の人々とまちの未来を守る役割が求められます。従来の警察署は安全性確保のため執務空間が閉じがちで、外部に開かれた領域は最小限です。本計画では、必要なセキュリティを確保しながら、地域へ積極的に開く構成としています。大堀相馬焼の二重焼からヒントを得た外壁ルーバーは、環境性能を高めつつ、まちと建物をやわらかくつなぐ象徴的な意匠となります。正方形プランと四周開放の構成により採光・通風と象徴性を高め、将来変化に対応する可変的な執務空間と高い維持管理性を備えた、復興を見守る公共拠点を実現します。

浪江の町のランドマークとなる



技術提案書 (様式5)

※印の欄は記入しないでください



2階平面イメージ

受付番号  
※ 2

刑事生活安全係は鑑識室・取調室・掲示資料室の隣接に配慮  
1・2階を緩やかにつなぐ吹き抜け

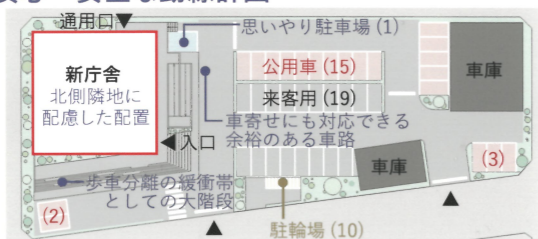
面積表

項目	面積 (㎡)
執務室	205
執務関連室	108
会議室	82
倉庫・書庫	205
福利厚生室	108
専用面積計	510
共用部分	296
庁舎床面積合計	806

(1) 県民の利便性に配慮し、必要なセキュリティが確保された庁舎の提案

## 01 プライバシーと利便性に配慮した安心・安全な動線計画

一般利用者は南東の出入口、関係者や相談室利用者は北通用口を利用することで、プライバシーとセキュリティに配慮します。敷地内は歩車分離を明確にし、駐車場は北と東側を公用車、中央を来客用とすることで、安全性と利便性を兼ね備えた計画とします。



## 02 敷地特性を最大限に活かした配置計画

西側配置と北側配置の利点を統合し、北西側に庁舎を置く正方形プランとします。敷地内の柵は植栽に置き換え、地域に開かれた庁舎とします。建物四周を「おもて」とすることで象徴性を高めつつ、ロビーだけでなく全執務室に良好な採光・通風を確保します。

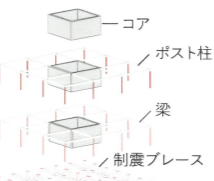
配置	採光	駐車場の距離	日影	通風	日射熱負荷	高上げの範囲
北西側	◎	◎	◎	◎	△	◎
西側	◎	○	◎	×	△	○
北側	◎	○	△	◎	×	×

◎: 新庁舎 ○: 既存車庫 △: 駐車エリア

(2) 県民の安全・安心の拠点となる庁舎の提案

## 01 制振構造を基本とし、免震構造への変更も可能な構造計画

経済合理的な 7M スパンの正方形グリッドを採用し、工期を最短化できる S 造 2 階建てとします。コスト面を考慮し制振構造とする場合は、1階床下に制振ブレース、外周に 250φ程度の細柱を配置し、経済性と開放性を両立します。地盤条件によっては申請期間を短縮できる「告示免震」への対応も可能とします。



## 02 BCP に配慮した計画

浸水被害を考慮し、キュービクルや非常用発電機は屋上に配置します。BCP としては 72 時間対応の非常用電源を確保し、地域スタンドとの連携も検討します。屋上には太陽光を導入します。

## 03 災害の記憶を継承する建築計画

建物を 1M 高上げし浸水対策を施します。ハザードマップの想定浸水ライン (GL+1.8M) より上に外壁ルーバーを配置し、日常的に浸水リスクを意識できる仕掛けとします。平常時は中央コア周りの空間から、災害時は屋上から地域を全周囲見守ることが出来ます。

## 04 警察署としての「開く」と「閉じる」

相談・市民サービスエリアは外部に開き、透明性とアクセス性を高めます。一方、捜査・留置・装備管理等の中核機能は動線を厳密に管理し、防犯性と機密性を確保します。開放性と安全性を両立する空間構成とします。

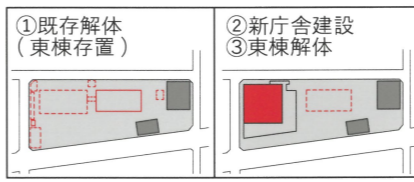


浸水のハザードラインを示すルーバー

(3) 人にやさしく環境に配慮した庁舎の提案

## 01 経済性に配慮した柔軟な仮設計画

現庁舎 2 棟間の Exp.J から西側へ新庁舎を建設することで、東側既存庁舎の引越費用を削減します。使用実態を調査し、経済性に配慮した適切な仮設計画を提案します。



## 02 施設全体で誰にでもわかりやすいユニバーサルデザイン計画

見通の良いロビーによる目的地とサインを一望できるわかりやすい動線計画とします。思いやり駐車場やスロープは建物東側に隣接配置し、車椅子利用者や介助者に配慮します。



ユニバーサルデザインが施されたトイレ

## 03 県産材の活用

県内森林事業者と連携し地域材の利用を促進することで、持続可能な環境に寄与します。木材を効果的に用いることで、温かみと快適性のある木質空間を実現します。



県産材利用・内装木質化

## 04 ZEB Ready 対応

外皮面積を最小化できる正方形プランにより、効率的な室内環境を実現します。外壁ルーバーを全周に設置し、日射熱負荷を抑えつつ良質な採光を確保します。

取り組み項目	省エネに対する効果
適材適所の断熱材	屋根・外壁に高性能断熱材を採用
複層断熱ガラス	Low-Eペアガラスの採用、開口部を絞る
自然通風・換気	適切に窓を設け、自然通風を実現
高効率空調機	COPの高い空冷 HPビルトアップエアコン
床置き型空調	居住域を効率的に冷暖房可能
照明器具	全面的な LED 照明の採用
太陽光発電パネル	十分な太陽光パネルを設置可能な屋根

(4) 社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎の提案

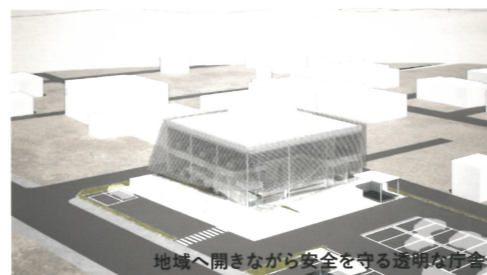
## 01 可変性の高い執務室計画

デジタル拠点として通信インフラを強化し、オンライン手続き窓口の統合や AI・映像解析室の設置など、DX を前提とした施設とします。中心コア周りに構造壁を設けず、将来的なレイアウト変更が容易な執務空間とします。

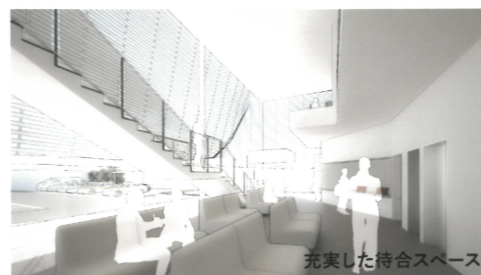
## 02 経済性と維持管理に配慮した計画

工種ごとに的確なコスト管理を行います。また、外装材には光触媒仕上げ、屋根材にはフッ素ガルバリウム鋼板を用い、清掃性に優れた素材を選択します。設備ルートを集約し、無駄な改修工事を最小化する等、長寿命で持続可能な施設を実現します。

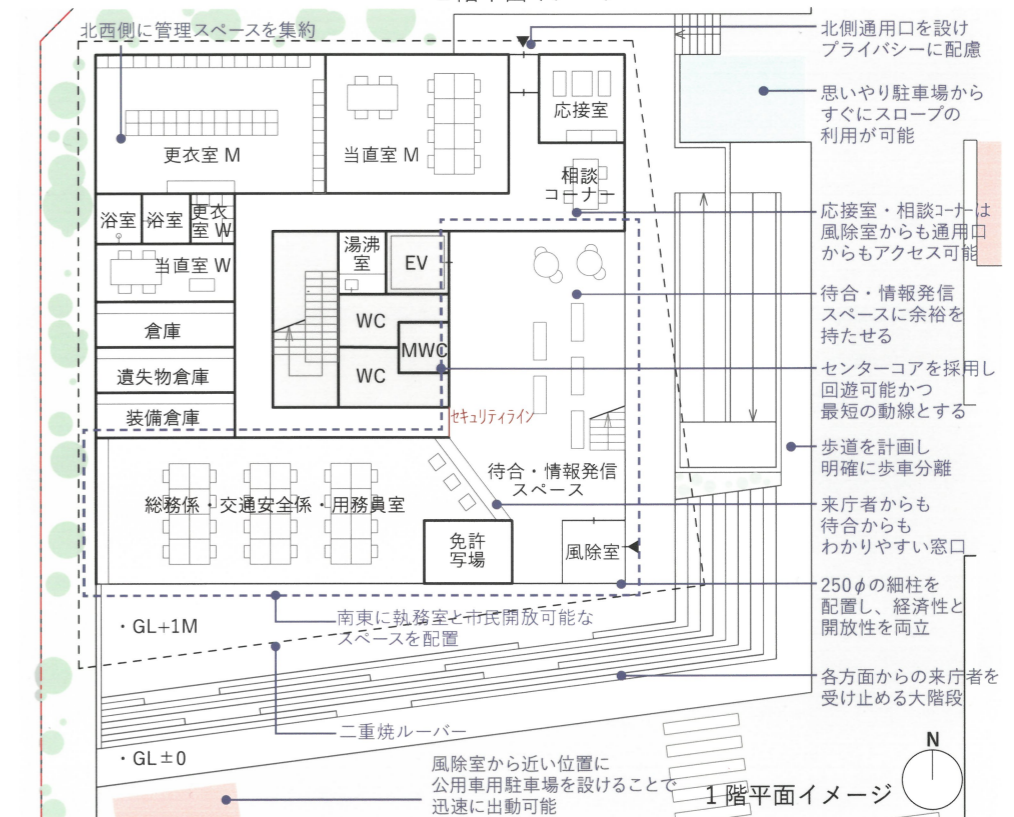
工種	主な取り組み内容
土工事	外構への転用で場外搬出土削減
基礎工事	上部構造軽量化
設備工事	設備機器に汎用品採用により、コスト削減
■維持管理	コスト削減・長寿命化に向けた取り組み
電気工事	電力デマンド対策・タスクアンビエント照明など
メンテ工事	改修時の道連れ工事の削減が可能な設計



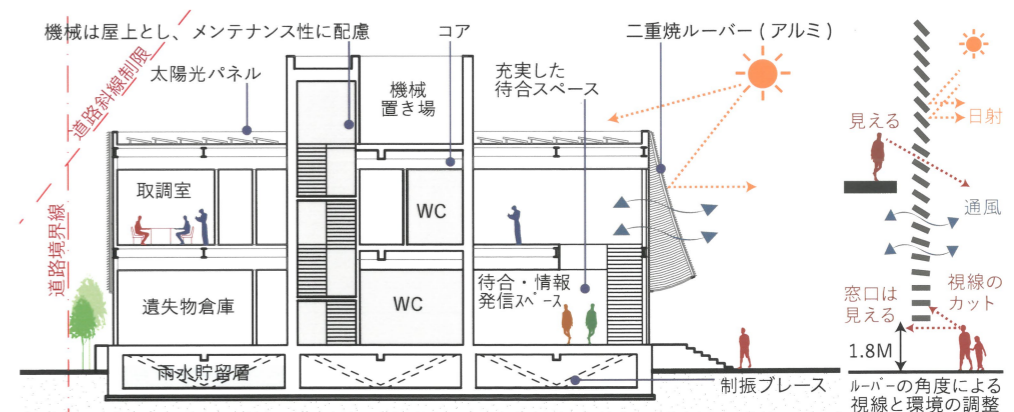
地域へ開きながら安全を守る透明な庁舎



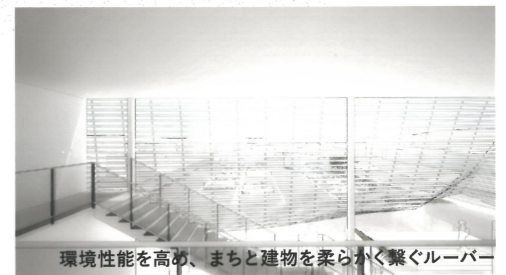
充実した待合スペース



1階平面イメージ



吹き抜けにより明るく開放感のある庁舎



環境性能を高め、まちと建物を柔らかく繋ぐルーバー

大堀相馬焼 (二重焼) 浪江町 HP 参照